

12月

進路通信

第11号 2013.12.10

旭東中学校

進路担当 寺前

私立受験校決定へ

2学期の全てのテストが終了し、成績が出たうえでおこなわれる12月の進路懇談では、私立の受験校を最終決定します。また、公立受験校も前期を第1志望とする生徒は、今回の懇談で受験校をほぼ決定させてください。受験校が決まれば、その学校の出題傾向などをふまえた対策が必要になります。私立高校受験についてまず「知っておきたいこと」を、今回の進路通信の裏面に記したので確認してください。そのうえで12月～1月の勉強方法をアドバイスします。

私立受験対策(入試直前勉強法)

12月からは 試験科目のすべてを均等に

夏の勉強法では、「弱点(苦手)教科の克服」と、「難しい教科(数→英→国→理→社)から順に時間をかける」ことを薦めましたが、12月からは試験教科すべてについて「同じぐらい」勉強すべきです。特に暗記教科の理科や社会は、今からでもかなり伸ばせるので、これまで理科・社会に時間をかけなかった人は、ぜひしっかり勉強してください。数学・英語で10点伸ばすことは難しくても、理科・社会なら10点以上簡単に伸ばせるはずです。ほとんどの学校がどの教科も同じ100点満点で、総合点で合否が決まるため、より得点の伸ばせそうな教科に重点をおいて勉強すべきです。ただし、苦手すぎて0～9点を取りそうな科目をそのままにすると、命取りになりかねません。夏の勉強法でも薦めたように、学校の副教材など「薄めの問題集」を、何度も繰り返し丁寧に(解説までよく読んで)解いて、力をたくわえましょう。

冬休みには 課題を先に終わらせる

冬休みの宿題は年内に終わらせましょう。また、受験校の過去問は入試説明会でもらえるので、早めに(これも年内に)手に入れておきましょう。もらえない学校は書店で購入(いわゆる赤本等)できますが、人気高校や販売数の少ない学校のものは、年が明けると売り切れる場合もあります。

1月からは 過去問を演習したら、間違い直しをする

過去問を手に入れたら、1年分でのよいのでまず一度解いて採点してみましょう。自分の得点力と合格に必要な点数との差がわかります。そして1月からは、毎日1教科ずつ時間をはかって演習し、採点した後、同じぐらいの時間をかけてじっくり解説を読み、間違い直し(解き直し)をしましょう。そうすることで、出題傾向(特徴やパターン)・難易度がわかり、対策がつかめてきます。

公立対策は 前期は私立対策と並行して、後期は私立が終わってから

私立受験から公立後期まではひと月ありますが、公立前期までは10日もありません。公立前期受験者は、私立の対策と並行して、同時に公立前期の過去問演習もすすめていきましょう。

入試で満点をとる必要はありませんが、わからない問題はそのままにせず先生に質問しよう!

ワンポイント

国語の苦手な人へ 国語って、最初から「答えが書いてある」教科ですよ!

問題の文中から「答えを探せばいい」って考えたら、簡単に感じませんか?

【裏面もあります】

私立高校受験について（知っておきたい入試情報）

①入試科目

私立高校の多くが5教科（数・英・国・理・社）または3教科（数・英・国）受験です。一部の女子校で（英・国＋選択）のように試験教科を選択できるところもあります。「アラカルト方式」といって、受験した教科のうち得点の高い3～4教科で可否を判断するところもあります。

②難易度

受験生を学力で振り分けるための入学試験ですから、全員が満点をとれる問題ではありません。どの高校も受験生の学力に応じて、半分程度は得点できる程度の難しさの問題を出題しています。つまり半分は解ける（はずの）問題、残りの半分は少し難しい（間違える可能性の高い）問題ということです。【入学試験は合格させるためでなく、「不合格者を決めるため」に行なうのです。】

③合格点（合格最低点・平均点）

標準コース＜専願＞の合格点が半分程度（各教科100点満点で50点：5教科で250点）。上位コース＜併願＞の合格点が7割程度（各教科70点：5科350点）という高校が多いようです。つまり私立高校入試は、「5割を確実に得点し、あと＋10～20%得点できれば合格できるもの」、「7割を目指して、5割～7割のあいだで他の受験生と戦うもの」なのです。

もちろん各高校の受験生の学力や、問題の難易度によって、合格最低点や平均点は異なりますが、入学試験は8割もとれることはまずありませんし、またとれなくても合格できるのです。

④合格できない点数

どの高校も、すべての教科で最低10点はとれるような問題を出題しています。逆にいえば、どんなに苦手な教科であっても10点はとらなければ（9点以下だと）不合格とされたり、他の教科がどんなに良くても「1教科でも0点があれば不合格とする」高校が多いようです。

⑤面接

面接のある学校・ない学校、面接を得点化する学校・しない学校、面接を重視する学校・重視しない学校、各高校で面接の重みは違いますが、絶対に守らなければならないことがあります。ひとつは、**各高校の教育方針（宗教教育など）に「同意する」**ことです。「同意できない」ならはじめからその高校を受験すべきではないのです。

もうひとつは、**服装・頭髪・態度・言動などに不適切な点がない**ことです。それらを守らず、ワザと変わった服装や頭髪で受験するのは、「不合格にしてください」と言っているのと同じことです。また服装・頭髪・態度・言動は**面接の時間だけでなく、待っている時間や学力試験の最中、休憩時間などもチェックされています**。人間を「見た目」だけで判断することはいけませんが、人は「見た目」でも判断されるのです。

⑥特待生

かなりの数の高校が、**入学試験の成績や中学校での学業成績、部活動の実績・結果、血縁者が在学・卒業など、さまざまな条件による特待制度**を設けています。条件に当てはまると、入学金が全額免除されたり、学用品が支給されたり、奨学金が給付されたりといった特典を受けることができます。条件や特典内容は、入試要項に記載されたりして「公開されているもの」と、受験生の相談に応じて知らせてもらえる「非公開のもの」があるので、詳細については各高校の案内をよく読んだうえで高校側に問い合わせるか、懇談の際に学級担任にたずねてください。